



Staphylococcus spp.



Klebsiella spp.

平成 29 年度 熊本県病院薬剤師会 第 3 回感染制御研究会研修会

～スモールグループディスカッション (SGD) 形式研修会のご案内～

謹啓

会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さてこの度、抗菌化学療法に精通した薬剤師の育成を目指したスモールグループディスカッション (SGD)形式研修会を開催します。

この研修会は症例検討を中心に進めていきます。抗菌薬の適正使用について知識を深めたい方や抗菌薬治療に興味を持たれている方の積極的な参加をお待ち申し上げます。参加は聴講のみでも可能ですが、是非とも SGD への積極的なご参加をお待ちしております。

謹白

日時 : 平成 29 年 10 月 13 日(金) 19:20 ~ 21:30

場所 : 熊本大学薬学部 宮本記念館
熊本県熊本市中央区大江本町 5-1

参加費 : 200 円

日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師制度 (V-2) 1 単位

日本病院薬剤師会 <感染制御領域> 講習会 1 単位

日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師制度 2 単位

----- プログラム -----

司会 熊本大学医学部附属病院 薬剤部・感染制御部 尾田 一貴

I. 情報提供 19:20~19:30

丸石製薬株式会社

II. レクチャー 19:30~20:00 (30分)

「抗菌薬適正使用の基本の“キ”」

熊本大学医学部附属病院 感染免疫診療部 中田 浩智 先生

III. SGD: 症例検討 20:00~21:30 (90分: V-2)

「尿路感染症」

福岡赤十字病院 薬剤部 大石 泰也 先生

IV. 閉会

共催: 熊本県病院薬剤師会・丸石製薬株式会社
(問い合わせ先: 熊本大学医学部附属病院 薬剤部 尾田一貴)

TEL: 096-373-7457

mail: kazutakaoda@kuh.kumamoto-u.ac.jp



Streptococcus spp.



Pseudomonas spp.

研修会の進行方法について

- I. 情報提供
製品の特性、及び WHO や CDC のガイドライン等に従った適正使用に関する情報提供
- II. レクチャー
医師による診断に関する知識の習得。知識の習得とは、もちろん薬剤師が診断をする目的でもなくその必要もないが、最低限医師と建設的な議論をし、診療支援を行うために有効（必要）であると考えられる知識を指す。
- III. SGD①：症例検討
県外の薬剤師を、症例検討の演者として招請し、症例検討を行う。
- IV. (SGD②：症例検討 可能ならば)
(県内の薬剤師を、症例検討の演者として招請し、症例検討を行う。)

SGD: スモールグループディスカッションにおけるテーブルの数は、チューターの参加者数×1 とするので、SDG の参加者は事前予約制とする。

<将来的な症例検討の流れ>

(発足時は基本的内容から開始し、アンケートでニーズを確かめながら、難易度を調整する。)

1. まずは患者の基礎情報背景、現病歴を示す。ここでは具体的な感染症名は出さずに、以下を議論する。
 - (ア) 鑑別診断
 - (イ) 上記を評価するために必要な情報
2. SGD で出された意見を基に各種検査所見、全身評価等を示し、感染症名を提示し、以下の議論につなげる。
 - (ア) 診断：〇〇感染症
 - (イ) なぜその感染症を引き起こしたのか
 - (ウ) 侵入門戸はどこか、他に評価すべき臓器はあるか
 - (エ) 想定される原因菌はどのようなものがあるか
 - (オ) 原因菌を特定するために、何が必要か
3. SGD で出された意見を基に感染症、感染臓器、原因菌から、必要な診療プランについて議論する。
 - (ア) 抗菌薬以外に、時系列を意識して必要な診療支援はあるか
 - (イ) 感染対策はどのようなことを考慮するか（カテ感染対策、SSI 対策など）
 - (ウ) 抗菌薬の選択、投与量、用法用量の決定
 - (エ) 治療期間の決定
 - (オ) De-escalation および step down が可能な条件とプラン
4. 今回の診療支援の着地点、ゴールを議論する。
 - (ア) 転院か退院か、集中治療室退室か、など
 - (イ) 観察すべき副作用、用量調節因子の変化について
5. まとめ